2023年２月８日号

桜蔭会便り

発行 一般社団法人桜蔭会

東京支部　秋の講演会（2022年10月1日）報告

喫茶の伝来から今日まで
～和文化としての茶道～

＠同窓会コモンズ４階

今回は大日本茶道学会会長の田中仙堂氏をお招きしました。田中氏は東京大学、同大学院を卒業され博士課程に学ばれています。

現在、公益財団法人三徳庵理事長として「お茶から広がる和の世界」を提唱し、茶人「千利休」の研究者として広く活躍されています。

コロナ前に企画されていた講演会が直前に中止となり、田中氏にも皆様にもご迷惑をおかけしましたが、今回2年越しに講演の運びとなり、会場参加者63名、オンライン参加者50名の100名を越える関心の高い講演会となりました。

（講演内容）

❑ 日本における喫茶の伝来

日本の喫茶習慣は、古くは大陸（中国）から遣唐使等により３度に渡って伝わったと言われています。

第１は唐から伝来の煮る茶（煎茶法）

第２は宋からの筅で泡立てる茶（点茶法）

第3は明からの浸出させる茶（淹茶法）

但し、現在の喫茶事情から考えて、明治維新後、欧米から伝わった紅茶に代表される第４の西洋からの伝来も見逃せません。

『茶が中国で食され始めたのは少なくとも紀元以前のことである。』
『日本へ伝来する以前は固めた形で流通し、時には皇帝から重要人物へ下賜された事もあった。』
『正式に日本の歴史に茶が登場したのは「日本後記」に永忠が 815 年、嵯峨天皇に煎茶を献じたとある。』
『最澄（天台宗は始め顕教、後に密教化）や空海（真言宗は密教に分類）も煎茶の文化をもたらした。』
『密教寺院の近くに古くからの茶の産地が多い。』
『遣唐使云々とは別に中国と日本は民間レベルで常に交流交易があった。平安時代に伝わった茶の文化は始め、上層社会に定着していったと思われる。』
『平安時代末期、平家の政権時代、その後の鎌倉時代には宋人が多く渡来し、博多は日宋貿易の中心でありアジア有数の貿易の拠点であった。』
『宋人の多くは商人で当時の日本在住の中国の人達にとって茶の飲み方は庶民的であった。伝わった先の日本で洗練されていった。』

❷　「茶道」として定着した歴史

現在「茶道」として定着しているお茶は、第 2 の宋からのお茶を起源とします。
吾妻鏡によれば
「1214 年 2 月源実朝病気加持の際に、禅僧栄西により良薬と称し、茶一服とともに『喫茶養生記』が献じられた。」
とあります。これは鎌倉幕府に宋の生活様式が伝わっていた事を意味し、茶への愛好は「唐物」の所持と結びついて、意識されるようになりました。

『平安時代以降江戸時代まで、日本では「唐」は「中国」を表す言葉となっていた。』

京都に幕府を開いた室町将軍家は、公家文化に対抗するため、最新の唐物を「会所」で披露します。戦国時代、武士と商人が同席できる場として「茶会」が堺に出現し信長、秀吉に継承されて「茶道」の形が武士の文化として整えられていきます。堺の商人であった茶人「千利休」もこの頃活躍しました。
江戸時代になると、「茶道」は専用の空間（茶室）での美的鑑賞ならびに飲食（懐石料理）を伴った交流として制度化され、生活文化として定着していきます。お茶の製法の革新も進み、受容層も文人から庶民へと広がっていきました。

『シンプルな美しさを求めた数寄屋造りの茶室がある大名庭園を各地に見る事ができる。』
『‘懐石’は茶道から出てきた言葉、茶室で過ごして空腹を感じたら温めた石を懐に入れての意味、しかし実際は料理革命が起きていた。
ｉ時系列を持った料理、暖かいものを暖かいうちに。

ⅱすべて食べきることのできる料理を。栄養のあるものをバランスよく。
ⅲ汁が多く出るものは良いが汁物を少なく。』
『明治維新後、日本の宮廷料理の主流は西洋風となりフランス料理のフルコースとなった。
海外に誇る日本料理というと近年は懐石料理を指すことが多い。』
『明治維新後、外国への憧れは西洋文化へ移ったにも関わらず、日本茶は大きな輸出品となった。しかし、紅茶・コーヒーが世界の（日本でも）ティータイムの主流となり緑茶は日本国内の需要に応えている。』
『抹茶が入った駄菓子が外国人の土産品として人気。』

死によって中断された利休の「茶の湯」が「わび茶」として日本の過去の文化的蓄積に結びつける独自の美意識のなかで再評価され、日本の伝統の中核としての位置を与えられるようになりました。岡倉天心は、幕末の井伊直弼が『茶湯一会集』に記した「一期一会」が日本にある西洋と異なった文化的理念と主張しています。このような意味で、「茶道」は、芸術を生活の中に溶け込ませている「生活文化」の典型です。

『芸術文化振興基本法では、茶道は、華道・香道と合わせて「生活文化」とカテゴライズされている。』

❸ 終わりに

今回の講演会で、田中仙堂先生は、1000 年以上の「茶の湯」の歴史をとても丁寧にお話し下さり、あっという間の２時間でした。先生が最後に「茶の湯」は、「人と人とを結びつけるコミュニケーションの媒介」であるとお話しされ、それがとても印象に残りました。

今回も桜陰会本部 ICT チームのご協力を得て zoom による同時配信を行いました。
心より関係者の皆様に感謝申し上げます。(A.M.)

☆田中仙堂氏著作（一部を紹介）
田中仙堂『お茶と権力』(文春新書)
田中仙堂『茶の湯名言集』(角川ソフィア文庫)
田中仙堂『岡倉天心「茶の本」をよむ』(講談社学術文庫)
田中仙堂『千利休「天下一」の茶人』(宮帯出版社)